令和３年度
「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立矢田西小学校

令和４年３月１７日

（様式１）

大阪市立矢田西小学校　令和３年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

学力面では、学校の落ち着きとともに全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等において、基礎・基本の定着を図る取組を継続してきたこともあり、徐々に効果が表れつつある。しかしながら、まだまだ基礎・基本の定着が不十分な児童も見られる。また、家庭での生活習慣のあり方などでは課題が残る状況である。

このような状況の中で、「確かな学力」をはぐくむために、児童の実態に沿ったきめ細やかな授業法を確立させる必要がある。また、継続して、児童に基本的生活習慣を定着させるとともに、しっかりした規範意識をもたせ、児童の授業に取り組む姿勢の改善や学習意欲の向上を図っていくことが必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○「防災・減災カリキュラム」を活用する。学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。

○安全教育を推進し、防犯・安全な歩行に関する学校行事を年３度の指導を行う。
学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する

○道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童を育成し、学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で 70%を上回る。

○人権を尊重する教育を推進し、学校行事「人権デー」を年１回実施する。学校診断アンケートにて、「人権に関わる学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。

○学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。

○体験活動の充実を図り学習に対する興味を高め意欲を向上させ、学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上とする。

○授業を公開する土曜授業を年間３回行い、保護者・地域が参加できる取組を土曜授業として年間１回取り組む。

○主体的・対話的な学びを実施し、学力を引き上げる授業展開の工夫をめざし、研究主題を「子どもの学力アップにつながる授業展開の工夫」として取り組む。若手教育の育成や教員相互の学び合いにつながる校内研修を実施する。年３回の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、**80%以上にする。**

○英語教育の深化・充実を図り、児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
○ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年 1 回行い、ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
○多文化共生教育を推進し、学校診断アンケートの「いろいろな国の人の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
○**「規則正しい生活を身につける」ことの大切さについて、児童の委員会活動を中心に呼びかけたり、健康週間の実施や「保健だより」などを活用したりして指導し、学校診断アンケートにおける「起きる時間や寝る時間が決まっていて、規則正しい生活を送っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を 80%以上にする。**
○子どもの体力・運動能力向上のために体力づくりに取り組み、学校診断アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を 80%以上にする。
○小・中学校の教職員の協力した指導等による学力向上をめざし、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年 1 回する。学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を 75%以上にする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。

○小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。

○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を出さない。

○年度末の校内調査において、**新たに不登校になる児童の割合を前年度よりも減少させる。**

学校園の年度目標

○災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。

○安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。
さまざまな場面における交通の危険について理解するとともに、体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを指導する。安全（防犯）の避難訓練を年 1 回行う。体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを年 2 回指導する。学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。

○道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童を育成し、学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で 70%を上回る。

○様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。
人権課題に関する学習成果として学校・保護者・地域に発信する場として、年度に 1 回「人権デー」を実施する。学校診断アンケートにて、「人権に関わる学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。

○学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す学校図書館を活用した取組を**年２回**行い学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 70%以上を達成する。

○体験活動の充実を図り学習に対する興味を高め意欲を向上させ、学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。

○小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。

○小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、**前年度より増加させる**。

○令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である 20mシャトルランの調査を 3 学期頃にも再度実施し、1 学期の結果よりも平均 3 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

○習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施し、学習効率意欲を高め、校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上とする。

○土曜を活用して授業を公開する土曜授業を年間 2 回行い、保護者・地域が参加できる「矢田西フェスティバル」を土曜授業として年間 1 回取り組む。

○主体的・対話的な学びを実施し、学力を引き上げる授業展開の工夫をめざし、研究主題を「子どもの学力アップにつながる授業展開の工夫」として取り組む。若手教育の育成や教員相互の学び合いにつながる校内研修を実施する。年 3 回の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、**80%以上にする。**

○英語教育の深化・充実を図り、新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国科の学習活動を行い、児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

○ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年 1 回行い、ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

○世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していこうとする多文化共生教育を推進し、学校診断アンケートの「いろいろな国の人の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

○新型コロナウイルスの世界的な流行という現状を、学年の発達段階に応じて理解し、児童自身が健康を守る生活習慣について意識することで、感染力の強い病気にかからないようにする。そのために、「保健指導」を工夫したり、手洗いや消毒の励行などの日常の指導をしたりして、児童自身の行動力を養う取組を行う。学校診断アンケートにおける「健康を守る生活習慣ができている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。

○子どもの体力・運動能力の向上に向けて、授業の改善を図るとともに、運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手立てを工夫することを継続して行う。また、縄跳びカードやかけあしカードを作成し、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組む。学校診断アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。

○中学校進学への不安軽減のために６年生が中学校の行事に参加する取り組みを実施する。学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 70%以上にする。「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年１回行う。

３　本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会の実現】については、教職員が一丸となり、児童に寄り添って指導を継続してきたので、全市共通目標については目標通り、学校の年度目標については目標を上回って達成することができた。コロナ禍で思うように体験的な活動を実施することができなかったが、代替となる体験を準備するなど、さまざまな工夫や調整をして教育活動を進めてきた。それらを保護者や地域の方々に温かく見守り、支援いただけたことはありがたかった。一方、学校だけでは対応しきれない事案については、関係諸機関の力を拝借しながら取組を進めたが、未だままならない問題もあるので、保護者や地域、関係諸機関との連携を深化しながら、児童に寄り添った教育活動をさらに充実させていきたい。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】についても、教職員が一丸となり、児童に寄り添って指導を継続してきたので、全市共通目標及び学校の年度目標は目標を通りほぼ達成することができた。年度目標の達成に向けた２つの取組内容については、取り組んだが目標を達成することができなかった。土曜日を活用した開かれた教育活動を進める取組については、コロナ禍で交流することが難しかったが、２学期の人権デーについては実施することはできた。基礎的・基本的な能力、知識、技能を活用する能力の育成を図る取組については、算数科を中心に習熟度別少人数指導を充実させることを通して、一定の成果は見られた。今後は、一人一台端末のナビマを活用したり、学力アップにつながる支援体制を見直したりすることなどを通して基礎基本が定着できるように取組を進めたい。

（様式２）

大阪市立矢田西小学校　　令和３年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標（小・中学校） ○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。 ○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を出さない。 ○年度末の校内調査において、**新たに不登校になる児童の割合を前年度よりも減少させる。**	B
学校の年度目標 ○災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。 ○安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。 さまざまな場面における交通の危険について理解するとともに、体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを指導する。安全（防犯）の避難訓練を年１回行う。体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを年２回指導する。学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する ○道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童を育成し、学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で 70%を上回る。	A

○様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。人権課題に関する学習成果として学校・保護者・地域に発信する場として、年度に１回「人権デー」を実施する。学校診断アンケートにて、「人権に関わる学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。 ○学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す学校図書館を活用した取組を年３回行い学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。 ○体験活動の充実を図り学習に対する興味を高め意欲を向上させ、学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用) 指標 令和３年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。	A
取組内容②【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用) 指標 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を 80%以上にする。	B
取組内容③【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 問題行動の早期発見に努め、多様な支援を行う。 （いじめ・問題行動に対応する制度の活用） 指標 令和３年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を出さない。	A
取組内容④【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 不登校や虐待に関する児童生徒の状況を適切に把握し、より丁寧な対応に取り組むことができるよう、児童理解に努める。 （不登校や児童虐待などの課題への対応） 指標 年度末の校内調査において、**新たに不登校になる児童の割合を前年度よりも減少させる。**	B

取組内容⑤【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。(防災･減災教育の推進) 指標 「防災・減災カリキュラム」に沿って学習を行い、学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。	A
取組内容⑥【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。 さまざまな場面における交通の危険について理解する。（ 安全教育の推進） 指標 安全（防犯）の避難訓練を年 1 回行う。体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを指導する。 学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。	B
取組内容⑦【施策②　道徳心・社会性の育成】 道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。(道徳教育の推進) 指標 学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で 70%を上回る。	A
取組内容⑧【施策②　道徳心・社会性の育成】 様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。（人権を尊重する教育の推進） 指標 人権課題に関する学習成果として学校・保護者・地域に発信する場として、年度に 1 回「人権デー」を実施する。学校診断アンケートにて、「人権に関わる学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。	A
取組内容⑨【施策③　地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す。(学校図書館の活性化) 指標 学校図書館を活用した取組を**年 2 回**行い学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。	A

取組内容⑩【施策③　地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 体験活動の充実を図り、学習に対する興味を高め意欲を向上させる。 （産業界との連携と学習資源の有効活用） 指標 学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の 80%以上を達成する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎…成果・取組内容　　◆…課題　　☆…次年度への改善策

取組内容①　「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。（いじめ・問題行動に対応する制度の活用）

結果　解消した割合　100%

◎普段から児童の様子を観察したり、いじめに関するアンケートを実施したりすることで、状況の把握に努めた。

◆嘲笑やからかい等、いじめにつながるような言動も見られることがある

☆担任が一人で抱え込まないよう、学年団等のチームで対応し、多角的な視点で指導していく。

☆たとえ小さな事象であってもその都度ていねいに指導し、いじめの芽をつむようにする。

取組内容②　「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。（いじめ・問題行動に対応する制度の活用）

結果　学校評価アンケート1番　90%

経年調査質問紙調査18番　87%

◎教職員が一丸となり、指導を続けた。学級での指導や朝会時の全校指導で、継続して啓発しているので、学校のきまりや規則を意識して学校生活を送ることができている。

◆遅刻や校外でのトラブル、染髪等の課題がなかなか改善しない。

☆当該児童に声をかけ続け、支援していく。また、保護者にも協力を仰ぐようにする。

取組内容③　問題行動の早期発見に努め、多様な支援を行う。（いじめ・問題行動に対応する制度の活用）

結果　0人

◎教職員が連携し、児童の様子を見ているのでトラブルの早期発見につながっている。

◎小さな課題でもきちんと指導することで、大きく発展する前に防ぐことができている。

◆校内のトラブルもあるが、染髪や校外でのトラブル等、指導しにくいことがある。

◆規則を守っていない非協力的な保護者への対応が難しい。

☆担任と担任外が協力して、当該児童や保護者にアプローチを続ける。

☆非協力的な保護者に対しては、管理職が窓口となる支援体制が必要。

取組内容④　不登校や虐待に関する児童生徒の状況を適切に把握し、より丁寧な対応に取り組むことができるよう、児童理解に努める。（不登校や児童虐待などの課題への対応）

結果　昨年度4人⇒今年度4人

◎担任だけでなく教職員で協力して当該児童や保護者と連絡を密にとったり、課題や手紙、授業ノートを家庭に届けたりすることで、家庭環境や実態に合わせて支援してきた。

◆なかなか不登校児童を減らすことができていない。

◆非協力的な保護者の家庭は、対応が難しい。

☆継続して保護者と連絡をとる。

☆保護者に関わる部分が多いので、母子分離等の強めの対応をとったり、各関係諸機関に協力を仰いだりする。

取組内容⑤　災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。（防災・減災教育の推進）

結果　学校評価アンケート4番　97％

◎コロナ禍の中、理科や道徳の学習や各クラスでの避難訓練で、防災・減災の意識を高めることができた。

◆災害がいつ起きるか分からないため、休み時間の避難訓練をコロナ禍でどうしていくか。

◆放送を聞く意識が低い児童もいるが、放送機器にも問題がある。

☆各クラスで放送を聞く指導を行い、災害に備える。

☆廊下、階段にも声が聞こえる放送機器にする。

取組内容⑥　安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。さまざまな場面における交通の危険について理解する。（安全教育の推進）

結果　学校評価アンケート2番　95％

◎ＤＶＤを使って、子どもたちに分かりやすく指導することができた。また、普段の学習から、帰り道や自転車の乗り方など、防犯や安全に対しての意識を高めている。

◆校外で自転車の事故や、道路に広がって歩いていたり、信号無視をしていたりと、交通安全の意識が低い児童もいる。また、それをどう保護者に啓発していくか。

◆コロナ禍で体験型の学習活動ができていない。

☆日々の声かけや手紙・ホームページなどを活用して啓発していく。

取組内容⑦　道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。（道徳教育の推進）

結果　学校評価アンケート11番　93％

◎年間計画に沿って、相互理解・共感を深める取組を行うことができた。

◎友達の意見を聞く、自分の意見を伝える、そしてそれらを交流するという流れが習慣づいてきている。

◆全体の場面では人任せにして積極的に発言しない児童もいる。

◆問いが分かりきった気持ちばかりを聞いてしまっている。

☆工夫した指導や学習形態、体験したときの気持ちなどを効果的に引き出す発問を考えていく。

取組内容⑧　様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。（人権を尊重する教育の推進）

結果　学校評価アンケート10番　95％

◎人権デーや人権に関わる学習を通して、様々な人たちが共存していることに気づき、仲間を思いやる気持ちを育てることができた。

◆８月６日の平和登校日及び矢田七校で集まる平和集会は、夏休み中で猛暑の日が多く、児童が集まりにくい。

☆平和登校日および平和集会については、近隣小学校とも協議していく。

取組内容⑨学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す。（学校図書館の活性化）

結果　学校評価アンケート3番　94％

◎週に１回の図書の時間や図書館開放によって、月に８冊以上の本を借りる児童が増えた。また、「新刊フェア」やボランティアによるお話し会の実施で、本に親しむ機会を設けた。

◎図書館補助員や担任の先生による日常的な読み聞かせの他に、教員による「読書リレー」を楽しみにしている児童が多かった。

◎社会科や国語科の他、総合的な学習において、学校図書館の資料、公共図書館から団体貸出を受けた本を使っての調べ学習も積極的に行われた。

◆図書館が遠いため、図書館開放に足を運ぶ児童が限られている。また、図書の時間に借りられる本も、読み物よりも迷路やクイズなどが好まれる傾向にある。

☆図書委員会の児童や、担任による読み聞かせ等で、たくさんの本と出会う機会を用意したい。また、学年に応じた本を紹介したり、児童相互に情報を交流したりすることにより、読書の分野を広げるなどの取組を工夫していく。

取組内容⑩　体験活動の充実を図り、学習に対する興味を高め意欲を向上させる。
（産業界との連携と学習資源の有効活用）

結果　学校評価アンケート5番　95％

◎コロナ禍で安全面を考慮して断念した活動もあったが、日程を延期したり調整したりしながら、どの学年も遠足や社会見学等の校外活動を最低１回以上は実施することができた。

◎校外に出ることができない分、映像資料を提示したり本物（具体物）に触れたりするなど、各学年が児童の興味関心を高める手立てを工夫した。また、社会見学をリモートで行う取組もあった。

◆コロナ禍で予定していた校外活動をすべて実施することができなかった。体験活動は一同に人が介在するので、コロナ禍では感染リスクをふまえて、活動を精選したり内容を工夫したりすることが難しい。

☆他校の取組も参考にしながら、コロナ禍でも安全に実施できる校外活動を計画していく。また、校外活動が中止になったときの代替になるような体験や資料をあらかじめ考えておく。

大阪市立矢田西小学校　令和３年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標(小･中学校) ○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 ○小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、**前年度より増加させる**。 ○令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である 20m シャトルランの調査を 3 学期頃にも再度実施し、１学期の結果よりも平均３ポイント向上させる。	B
学校の年度目標 ○習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施し、学習効率意欲を高め、校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上とする。 ○土曜を活用して授業を公開する土曜授業を年間 2 回行い、保護者・地域が参加できる「矢田西フェスティバル」を土曜授業として年間 1 回取り組む。 ○主体的・対話的な学びを実施し、学力を引き上げる授業展開の工夫をめざし、研究主題を「子どもの学力アップにつながる授業展開の工夫」として取り組む。若手教育の育成や教員相互の学び合いにつながる校内研修を実施する。年 3 回の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、**80%以上にする。** ○英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国科の学習活動を行い、児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ○ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年 1 回行い、ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。	B

○世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していこうとする多文化共生教育を推進し、学校診断アンケートの「いろいろな国の人の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ○子どもの体力・運動能力の向上に向けて、授業の改善を図るとともに、運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手立てを工夫することを継続して行う。また、縄跳びカードやかけあしカードを作成し、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組む。学校診断アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。 **○新型コロナウイルスの世界的な流行という現状を、学年の発達段階に応じて理解し、児童自身が健康を守る生活習慣について意識することで、感染力の強い病気にかからないようにする。そのために、「保健指導」を工夫したり、手洗いや消毒の励行などの日常の指導をしたりして、児童自身の行動力を養う取組を行う。学校診断アンケートにおける「健康を守る生活習慣ができている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。** ○中学校進学への不安軽減のために 6 年生が中学校の行事に参加する取り組みを実施する。学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。また、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年 1 回行う。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策５　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。(全市共通テストの導入) 指標 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	B
取組内容②【施策５　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。(全市共通テストの導入) 指標 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。	C

取組内容③【施策５　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。(全市共通テストの導入) 指標 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント増加させる。	B
取組内容④【施策５　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 全ての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的な深い学びを重点に置いた、優れた授業実践や校内研修の実施に取り組む。 指標 令和３年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。	A
取組内容⑤【施策５　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施する。 （学校力 UP ベース事業） 指標 学習効率意欲を高め、校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上とする。	A
取組内容⑥【施策５　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 土曜日を活用し、授業の公開や保護者・地域住民が参加する活動の実施など、開かれた教育活動を進める。（教育活動のための時間の確保） 指標 土曜を活用して授業を公開する土曜授業を年間 2 回行い、保護者・地域が参加できる「矢田西フェスティバル」を土曜授業として年間１回取り組む。	C
取組内容⑦【施策５　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 主体的・対話的な学びを実施し、学力を引き上げる授業展開の工夫をめざし、研究主題を「子どもの学力アップにつながる授業展開の工夫」として取り組む。若手教育の育成や教員相互の学び合いにつながる校内研修を実施する。 指標 **年１回**の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、**80%以上にする**。	B
取組内容⑧【施策６　国際社会において生き抜く力の育成】 基礎基本の英語を大切にする英語教育の深化・充実を図り、新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国科の学習活動に取り組む。 (英語教育の強化) 指標 児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。	A

取組内容⑨【施策６　国際社会において生き抜く力の育成】 ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年１回行う。 (ICT を活用した教育の推進) 指標 ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。	A
取組内容⑩【施策６　国際社会において生き抜く力の育成】 世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していこうとする多文化共生教育を推進する。（多文化共生教育の推進） 指標 学校診断アンケートの「いろいろな国の人の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。	A
取組内容⑪【施策７　健康や体力を保持増進する力の育成】 子どもの体力・運動能力の向上に向けて、授業の改善を図るとともに、運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手立てを工夫することを継続して行う。また、縄跳びカードやかけあしカードを作成し、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組む。（子どもの体力･運動能力向上のための取組の充実） 指標 学校診断アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である 20mシャトルランの調査を３学期頃にも再度実施し、１学期の結果よりも平均３ポイント向上させる。	B
取組内容⑫【施策７　健康や体力を保持増進する力の育成】 **新型コロナウイルスの世界的な流行という現状を、学年の発達段階に応じて理解し、児童自身が健康を守る生活習慣について意識することで、感染力の強い病気にかからないようにする。そのために、「保健指導」を工夫したり、手洗いや消毒の励行などの日常の指導をしたりして、児童自身の行動力を養う。（健康に関する現代的課題への対応）** 指標 **学校診断アンケートにおける「健康を守る生活習慣ができている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。**	A
取組内容⑭【施策８　施策を実現するための仕組みの推進】 中学校進学への不安軽減や小・中学校の教職員の協力した指導等による学力向上をめざし、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を推進する。 (小中一貫教育の充実) 指標 ６年生が中学校の行事（体育祭や文化祭）に参加したり、中学校の授業体験やクラブ紹介に参加したりする。理科の指導において中学校教員による授業を実施する。 「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年１回行う。 学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 70%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
◎…成果・取組内容　　◆…課題　　☆…次年度への改善策

取組内容①　児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。（全市共通テストの導入）
指標：小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
結果　ほぼ達成できた。
6年《98.3⇒103.1》5年《100.2⇒96.2》4年《96.2⇒98.7》3年《93.3》

取組内容②　児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。（全市共通テストの導入）
指標：小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。
結果　達成できなかった。
6年《3.2%⇒3.0%》5年《17.6%⇒25.0%》4年《28.9%⇒15.8%》3年《38.7%》

取組内容③　児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。（全市共通テストの導入）
指標：小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント増加させる。
結果　ほぼ達成できた。
6年《6.5%⇒24.2%》5年《29.4%⇒22.2%》4年《10.5%⇒21.1%》3年《16.1%》

取組内容④　全ての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的な深い学びを重点に置いた、優れた授業実践や校内研修の実施に取り組む。
結果　学校評価アンケート8番　92%
経年調査質問紙調査26番《前年度 88.2% ⇒ 今年度 85.1%》
◎感染対策に気をつけながら、様々な学習場面でペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れたことで、自分の考えを広げることができた。また、授業中の話し合いの仕方や協力して活動する方法が定着してきた。
◆全体的に語彙数が少なく、話し合いが苦手な児童への支援が課題である。
◆話すだけでなく、聞く力も育てていきたい。
☆みんなが話し合うことができる内容からスモールステップで取り組む。
☆聞き方（メモ、相槌、どう感じたか等）の指導にも力を入れていく。

取組内容⑤　習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施する。(学校力 UP ベース事業)

結果　学校評価アンケート9番　95％

◎学力差が広がらないように、スーパープリントや学力の低い児童をサポートするプリント等を準備し、全体の学力を向上させることができた。また、算数科では、単元に合わせて習熟度別少人数学習を行い、レベルに合わせた授業をすることができた。よって、習熟度が低い児童も安心して学習に取り組むことができた。

◆成績の二極化が進んでいるため、同じペースで授業を進めることが難しい。習熟度が低い児童のフォローはもちろん、どんどん進みたい子、理解できている子への学力保障も必要である。国語科については、習熟度別学習を実施するのが難しい。

☆習熟度担当と学級担任だけでは限界を感じるため、特別支援担当など、学校の体制を見直す必要がある。二分割では限界があるので、複数人でフォローしていく。また、子ども同士で教え合い、学び合う時間を増やす。

取組内容⑥　土曜日を活用し、授業の公開や保護者・地域住民が参加する活動の実施など、開かれた教育活動を進める。(教育活動のための時間の確保)

結果　授業公開1回　矢田西フェスティバル0回

◎コロナ禍で保護者や地域との交流ができないなか、密にならないように場の設定を工夫して、２学期に参観（人権デー）を実施することができた。

◆コロナの影響で、予定していた１学期の土曜参観（引き渡し訓練）、３学期の土曜参観（矢田西フェスティバル）が実施できなかった。

◆土曜授業は欠席者が多く、家庭事情も配慮しないといけない。

☆土曜授業の在り方について、次年度の年間行事とも合わせて考えていく。

取組内容⑦　主体的・対話的な学びを実施し、学力を引き上げる授業展開の工夫をめざし、研究主題を「子どもの学力アップにつながる授業展開の工夫」として取り組む。若手教育の育成や教員相互の学び合いにつながる校内研修を実施する。

結果　前年度よりも増加した。　　前年度88.2％⇒今年度 85.1％

◎主体的・対話的な学びの学習を日々の授業の中で実施し、学力を引き上げる授業展開の工夫をそれぞれが実践した。研究授業は１本実施することができた。また、メンター研修も研修の中に位置づけし、講師先生による国語科の授業についての研修を実施することもできた。アンケート結果から今年度の成果を分析すると、主体的に学べるように、子どもの実態に合わせためあての設定、ふりかえりの実施により、子どもが主体的に学ぶ姿が見られた。対話的な学びでは、ペア学習やグループ学習などを繰り返すことで、少しずつではあるが自分の考えをもち、話し合いに参加できるようになってきた。

◆ふりかえりが書ける子と書けない子の差が大きい。

◆対話的な学びにより、自分の考えを広げたり身に付いた知識や技能を定着させたりするまでには至っていない。

◆教職員と子どもや、子ども同士が対話することで思考を広げ、物事を多面的に理解するまでには至っていない。

◆学力の二極化が低学年でも起きている。上の学年になるにつれ、その差は大きい。

◆コロナ禍での、一人一授業の参観をどのようにしていくか。

☆来年度もメンター研修を研修の中に位置づけし、相互の学び合いにつながる研修をメンター中心に実施する。来年度は、子どもにとって一番自信にもつながる学力アップにつなげられるように、学校全体として基礎基本の定着が徹底できるように、ナビマを活用したり、学力の低い子への手立てを学校全体で支えられたりするような支援体制を見直す必要がある。来年度もコロナ禍が予想されるが、全体の研究授業を１本は確実に実施する。一人一授業の在り方ももう一度全体で見直す。

取組内容⑧　基礎基本の英語を大切にする英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国語科の学習に取り組む。（英語教育の強化）

結果　学校評価アンケート12番　94％

◎全学年でデジタル教科書やＣＤ・ＤＶＤ教材、絵本などを活用して、週２回のモジュール学習に取り組んだ。

◎年間計画を立て、全学年が C-NET を活用した授業を実施したことで、ネイティブの英語に触れ、楽しく意欲的に学習に取り組めた。

◆学習内容の定着が難しい。

☆定着を図るために、C-NET と協力し、授業のはじめなどの短い時間で終えた学習内容を指導する。

☆指導のバリエーションを増やすために、C-NET に指導方法を教えてもらったり、教材の準備を一緒にしてもらったりする。

取組内容⑨　ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年１回行う。
(ICT を活用した教育の推進)

結果　学校評価アンケート13番　97％

◎授業でのデジタル教科書、調べ学習、読書リレー、委員会等で、ICT 機器を活用することで、視覚的にとらえやすかった。１人１台学習者用端末が配備されたので、児童がローマ字を打てるようになった。年間２回以上、研修を実施できたので、ICT 機器の使い方が理解できた。

◆通信環境が悪いので、予定していたことができなくなったことがある。短期間で情報が変わったり、システムが変わったりすることもあるので、教員自身情報がアップデートする必要がある。ＩＤ・パスワードが多いので管理が大変である。

☆教員の習熟度に合わせた研修の実施。また、全体にしっかりと周知できるようなシステムを構築する。

取組内容⑩　世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していこうとする多文化共生教育を推進する。（多文化共生教育の推進）

結果　学校評価アンケート14番　92％

◎課内実践を通じて、韓国・朝鮮の遊びや文化について知ることができた。

◎児童会主催のあいさつ週間やＹＷＣ，チョソンなどの活動や、社会科の学習などを通じて、いろいろな国の人の生活を知ることができた。

◎学期に１回、ＹＷＣの活動で様々な国の遊びや制作活動を行っている。活動を通じて、様々な国について知るきっかけとなっている。

◆韓国・朝鮮について知る機会はあったが、他国については十分とは言えない。
◆チョソン西小の会やＹＷＣの発表や周知の場について検討する。
☆コロナ禍なので、状況に応じて臨機応変な対応が必要。

取組内容⑪　子どもの体力・運動能力の向上に向けて子どもへの取り組みの改善を図るとともに、体育科の学習において、運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手だてを工夫することを継続して取り組んでいく。（子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実）

結果　学校評価アンケート7番　94％
シャトルラン　平均3ポイント向上

◎運動が苦手な子どもでもスモールステップな課題を行うことで、体力や運動能力の向上につながった。また、縄跳びカードやかけ足カードを児童に配布することで、目標をもって体力づくりに取り組むことができた。
◆なぜ運動することが大切なのかを伝えられていなかった。
☆体を丈夫にするために、運動することが大切であるということを子どもに伝える。

取組内容⑫　新型コロナウイルスの世界的な流行という現状を、学年の発達段階に応じて理解し、児童自身が健康を守る生活習慣について意識することで、感染力の強い病気にかからないようにする。そのために、「保健指導」を工夫したり、手洗いや消毒の励行などの日常の指導をしたりして、児童自身の行動力を養う。（健康に関する現代的課題への対応）

結果　学校評価アンケート6番　96％

◎保健委員会の発表で、手洗いうがいやマスクの着用の仕方、ソーシャルディスタンスについて啓発することができた。そのおかげで、手洗いうがいや正しいマスクの着用など自分たちができる感染症対策をできる児童が多かった。また、消毒作業を定例化したことで、感染予防につながった。
◆マスクの徹底ができていない。ハンカチを持っていない子が多い。
☆マスクの着用やハンカチを毎日持ってくるように、引き続き声かけをしていく。また、来年度の委員会発表で啓発していく。

取組内容⑬中学校進学への不安軽減や小・中学校の教職員の協力した指導等による学力向上をめざし、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を推進する。
（小中一貫教育の充実）

結果　学校評価アンケート15番　88％

◎理科の授業で、中学校の教員が１年を通して指導を行ったことで、児童は中学進学への不安を軽減することができた。
◆コロナ禍での行事の参加や交流はどうしても難しい。
☆スムーズに中学校に進学できるように、体験できない場合はできるだけ代替案を中学校と考えていく。

（様式３）

令和３年度　　学校関係者評価報告書

大阪市立矢田西小学校協議会

１　総括についての評価

○学校が一丸となって取り組み、子どもたちを大切に育んでいることがよく伝わった。 ○さまざまな問題を教職員や管理職が連携して取り組んでいて、問題改善につながっていると思う。 ○関係機関と連携が必要な家庭や協力が得にくい保護者の課題、学力低位層の課題等は、中学校と共通するものが多く、頭を悩ましていることと思う。

２　年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年１回行い、ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
○コロナ禍で ICT を活用した教育推進が図られ、研修が行われているのもよいと思った。
年度目標：令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である 20ｍシャトルランの調査を３学期にも実施し、１学期の結果よりも平均３ポイント向上させる。
○及第点。さらに、体力向上に努めてほしい。 ○コロナの影響を感じさせない結果でよかった。 ○５年生のシャトルランはすばらしい。体力合計点も高い水準である。
・ワークショップ型の授業を増やすなどすることで、人の話を聞く、意見を言う、まとめる力がつくのではないかと思った。 ・目標を立てて取り組むのが苦手なようなので、目標をたて、達成できた時の楽しさややりがいを体験できるようにしてほしいと思った。

３　今後の学校園の運営についての意見

○学校は、児童のことを考えて最善を尽くして取り組んでいる。 ○今後とも地域と密着した運営をお願いしたい。 ○中学校との共通の課題について連携を深めて取り組んでほしい。 ○コロナ禍の中でもできる小中連携を創造できればと考えている。